

## 原子力第 1 船原子炉施設の検討書

原子力第1船原子炉は、船舶(以下、「むつ」という。)及び附帯陸上施設から構成されている。むつは、昭和44年6月に進水し、昭和49年8月の出力上昇試験において初臨界を達成した。その後、出力上昇試験等を行い、平成3年2月に我が国初の原子動力実験船として完成した。平成4年2月に実験航海を終了し、その間の積算熱出力は $8.1 \times 10^4$ MWhである。同年8月に原子力第1船原子炉施設の解体届(4原研05第48号)を届け出て、解体に着手し、燃料体の取出等、原子炉補機室等の機器類撤去及び原子炉室一括撤去・移送を行い、一括撤去された原子炉室は、平成8年度から一般展示している。その後、平成18年3月31日付けで廃止措置計画(17原機(む)047)を申請し、同年10月20日付けで認可(17諸文科科第5682号)を取得した。

なお、取り出した全ての燃料体は、燃料・廃棄物取扱棟内で一時保管した後、平成13年に再処理準備のため原子力科学研究所に搬出した。

施設の現状は、放射化物、二次汚染物を含む原子炉室一括撤去物及び解体廃棄物が残存していることから、地震時に周辺の公衆に過度の放射線被ばくを及ぼすおそれはないため、耐震設計上、重要度分類Sクラスとして検討を行う原子炉に相当しない。

以上